

平成 21 年度第 2 回普及に移す農業技術・試行技術（技術項目及び要約のみ）

番号	技術項目 要 約	担当場・部
1	水稻多収品種の収量性と立毛乾燥を前提とした成熟期後の耐倒伏性 [要約] 水稻多収品種の生育・収量特性を評価したところ、「北陸 193 号」等は耐倒伏性が強く、ほ場において立毛状態で乾燥してから収穫することが可能である。	農試作物部
2	ぶどう「ナガノパープル」の施設栽培における裂果発生軽減のためのかん水方法 [要約] 施設栽培のぶどう「ナガノパープル」では、満開 35 日後～収穫直前まで、1 回 15mm 程度のかん水を 3～4 日間隔で実施することにより、裂果発生が軽減できる。	果樹試栽培部
3	醸造用ぶどうの新仕立て法「ハヤシスマートシステム」は、高品質果実生産が可能で省力性に優れる [要約] 「ハヤシスマートシステム」は、片側短梢せん定を行い、新梢を一方向にだけ誘引する仕立て法で、醸造用ぶどうにおいて高品質果実生産が可能で、省力性に優れ収量も確保できる。	果樹試栽培部（旧 中信農業試験場畑作栽培部）
4	りんご 2 年生わい性台木苗木（カッツリー）の掘り上げ前の摘葉開始時期は 11 月中旬とする [要約] カッツリーは、掘り上げ前の摘葉時期が早いと定植後の生育が劣る。11 月中旬の摘葉であれば、樹体のデンプン濃度が十分に高まることにより耐凍性が増し、定植後 良好な生育が期待できる。	果樹試環境部・栽培部
5	アスパラガスの培土による収量向上効果 [要約] アスパラガスのりん芽が地表面から 10～15cm の深さになるように培土することにより、りん芽部の温度および水分環境が安定し、若茎の太物比率が高まるとともに、かん水ができない場合の減収程度を軽減できる。	野花試野菜部
6	カラーピーマンの栽植密度、仕立て方と収量 [要約] カラーピーマンのハウス半促成栽培で、従来の主枝 4 本仕立てより栽植密度を増やし主枝 2 本仕立てにした方が株当たり収量は劣るものの、面積当たり収量は多くなる。	野花試野菜部
7	セルリーの減肥栽培における畦内施肥・畦立て・土壌消毒・マルチ張り同時作業乗用管理機の適応性 [要約] 乗用畦内施肥・畦立て・土壌消毒・マルチ張り同時作業機は、肥料の繰り出し精度が高く、また作業速度も歩行型より速く、セルリー一露地栽培の畦内施肥による減肥栽培への適応性が高い。	野花試野菜部・環境部、農業技術課
8	カラーピーマンハウス半促成栽培の被覆肥料による育苗ポット全量施肥技術、定植時植え穴全量施肥技術 [要約] カラーピーマンのハウス半促成栽培で、スーパーシグモイド型の被覆肥料を用いた育苗ポット全量施肥あるいはリニア型被覆肥料を用いた定植時植え穴全量施肥により 12.5～30%減肥栽培が可能である。	野花試野菜部
9	トマトハウス雨よけ栽培の被覆肥料による定植時の植え穴全量施肥技術 [要約] トマトハウス雨よけ栽培において、定植時に被覆肥料を植え穴へ全量施肥する方法は、慣行施肥に比べ 3 割減肥しても同等の上物収量が得られる。肥料は被覆燐硝安加里を使用し、追肥の必要はない。	南信試栽培部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
10	<p>トマトハウス抑制栽培の被覆肥料による育苗ポット全量施肥技術</p> <p>[要約] トマトハウス抑制栽培において、苗の鉢上げ時に被覆肥料を育苗ポットへ全量施肥する方法は、慣行施肥に比べ3割減肥しても同等以上の上物収量が得られる。肥料は、初期溶出抑制型の被覆磷硝安 2401 と被覆塩化加里、砂状ようりんを育苗土へ混合し、本圃へ基肥・追肥を施用する必要はない。</p>	南信試栽培部
11	<p>きゅうり露地普通栽培の被覆肥料による育苗ポット全量施肥技術</p> <p>[要約] きゅうり露地普通栽培の育苗ポット全量施肥栽培は、慣行栽培に比べ窒素を3割減肥しても同等の上物収量が得られる。肥料は、初期溶出抑制型の被覆磷硝安 2401 と被覆塩化加里、ようりんを育苗土へ混合し、本圃への基肥・追肥は行う必要がない。</p>	南信試栽培部
12	<p>クラウン部冷却による夏秋どりいちごの増収技術（県内限定）</p>	南信試栽培部
13	<p>シンフォリカルポスの鉢物化技術</p> <p>[要約] シンフォリカルポスは2月上旬に挿し木を行い、5月中旬に5号鉢へ定植することで鉢物化が可能である。わい化剤を20日間隔で3回茎葉散布すると節間伸長が抑制され、5号鉢に適した草姿となる。</p>	南信試栽培部、野 花試北信支場花き 部
14	<p>ハタケシメジはオガコ主体培地で栽培が可能であり、pH調整材を加えることで増収する</p> <p>[要約] ハタケシメジは、培地基材にバーク堆肥を用いないオガコ主体培地（スギオガコ、コーンコブミール、特フスマ、ネオビタスN）で栽培が可能であり、培地pH調整材「きのこライム」を加えることにより収量が増収する。</p>	野花試北信支場菌 茸部
15	<p>乳牛用の飼料給与診断ソフトウェア「DAIRY ver4.0」は、乳牛の飼料給与診断、設計ができる</p> <p>[要約] 乳牛用の飼料給与診断ソフトウェア「DAIRY ver4.0」は、表計算ソフトExcelを用いて、日本飼養標準・乳牛（2006年版）に基づいた乳牛の飼料給与診断、設計ができる。</p>	農業技術課
16	<p>飼料用とうもろこし「長交 C980 号」は中生系統として有望である</p> <p>[要約] 飼料用とうもろこし「長交 C980 号」は相対熟度(RM)125 の中生系統で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病およびすす紋病に抵抗性で、茎葉消化性が高く、多収な系統である。</p>	野花試畑作育種部
17	<p>黒毛和種子牛育成マニュアルで育成すると、正常発育曲線平均値以上の発育が期待できる</p> <p>[要約] 黒毛和種子牛育成マニュアル（初版平成21年1月）に基づき黒毛和種子牛を育成したところ、8ヵ月齢時点において雌雄ともに黒毛和種正常発育曲線平均値を上回る発育であった。</p>	畜試酪農肉用牛部
18	<p>飼料用ソルガム「東山交 34 号」は高品質で紫斑点病抵抗性の兼用型品種である</p> <p>[要約] 飼料用ソルガム「東山交 34 号」は高消化性遺伝子を持ち、飼料品質ならびに嗜好性に優れ、紫斑点病抵抗性を有する兼用型品種である。</p>	畜試飼料環境部

番号	技術項目 要約	担当場・部
19	ソルガム「SG-1A」は糖生産力が高い [要約] ソルガム「SG-1A」はソルゴー型の既存品種で、広域（標高 600～1,000m 地帯）で糖生産力が安定して高く、シロップあるいはエタノール生産の原料として有望である。	畜試飼料環境部
20	飼料作物生産圃場におけるニホンジカ食害に対するソルガムの有効性 [要約] ソルガムは飼料用とうもろこしに比べ、生育初期のニホンジカ食害による減収被害を受けにくく、食害多発圃場における食害対策作物として有望である。	畜試飼料環境部、 農試企画経営部、 農業技術課
21	簡易型電気柵（改良型 F P P F）による公共牧場へのニホンジカ侵入防止効果 [要約] 公共牧場において、電気柵のフード・プロット・プロテクター・フェンス（F P P F）を改良し、既存柵の外側に電気柵を 1 本設置することにより、ニホンジカの侵入防止効果を向上させることができる。	農試企画経営部、 農業技術課
22	りんごせん定枝はチップ化して圃場内で循環利用できる [要約] りんごせん定枝は、チップ化して全面に均一散布すれば、圃場内で循環利用できる。	果樹試環境部・栽 培部
23	スイカ育苗期における果実汚斑細菌病の防除対策 [要約] 育苗期の果実汚斑細菌病防除には、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、銅パーシン）1,000 倍液の散布が防除効果および病原菌伝搬阻止効果が高い。さらに接木用ナイフを 80%エタノールまたはケミクロン G の 1,000 倍液に浸漬することで病原菌の伝搬が阻止される。	野花試環境部
24	フタオビコヤガの発生予察にフェロモントラップが利用できる [要約] フタオビコヤガの発生予察にフェロモントラップが利用できる。市販の粘着トラップ（SEトラップ）またはファネルトラップを水田畦際の稲草冠部の高さに設置し、5～7日間隔で誘殺数を調査する。	農試環境部、農業 技術課
25	水稻のカメムシ類に対する粒剤の防除効果と散布時の湛水深 [要約] 水稻のカメムシ類に対してジノテフラン（アルバリン、スタークル）粒剤およびキラップ粒剤は散布時の湛水深を 1～3 cm 程度にした場合の効果が高い。	農試環境部

※普及に移す農業技術のうち試行技術は、農業関係試験場で育成、開発又は実証され、農業発展に寄与する技術及び情報のうち普及技術とするにはまだ未解決の部分があつて適当でないもの、おおむね生産技術の向上に役立ち、試行する価値があるものです。

毎年、10月と2月に普及技術検討会で審査され、公表されます。**試行技術の詳細については、お近くの農業改良普及センターへお問い合わせください。**

農業改良普及センター一覧

普及センター名	所在地	電話番号
佐久農業改良普及センター	佐久市大字跡部 65-1 佐久合同庁舎内	0267-63-3146
上小農業改良普及センター	上田市材木町 1-2-6 上田合同庁舎内	0268-25-7157
諏訪農業改良普及センター	諏訪市川上 1-1644-10 諏訪合同庁舎内	0266-57-2932
上伊那農業改良普及センター	伊那市大字伊那 3497 伊那合同庁舎内	0265-76-6842
下伊那農業改良普及センター	飯田市追手町 2-678 飯田合同庁舎内	0265-53-0436

木曾農業改良普及センター	木曾郡木曾町福島 2757-1 木曾合同庁舎内	0264-25-2230
松本農業改良普及センター	松本市大字島立 1020 松本合同庁舎内	0263-40-1947
北安曇農業改良普及センター	大町市大字大町 1058-2 大町合同庁舎内	0261-23-6543
長野農業改良普及センター	長野市大字南長野南県町 686-1 長野合同庁舎内	026-234-9534
北信農業改良普及センター	中野市大字壁田 955 北信合同庁舎内	0269-23-0221